

---

## 在宅血液透析(HHD)の普及を目指して ～患者・スタッフへの意識調査～

---

医療法人衆和会 長崎腎病院

○白井美千代 丸山祐子

### 【はじめに】

2006年よりHHDに取り組んでいるが、2013年まで患者は1名のみであった。2015年にHHD推進チームを発足し広報活動に力を入れ、スタッフ教育や管理体制の構築に努め、現在は21名となった。

### 【目的】

患者・スタッフの意識の変遷を調査し、今後のHHDに関する啓発や教育に活かす。

### 【方法】

当院外来透析患者、看護師・臨床工学技士に対し、2015年と2018年に意識調査を施行し比較検討した。

### 【倫理的配慮】

個人が特定できないよう配慮し同意を得て実施した。院内の倫理委員会の承認を得た。

HHD推進チーム発足後、法人の年間目標としてHHDの啓発と推進を掲げ取り組んだ結果、患者のHHD認知度は43.4%から84.1%へ上昇した。将来HHDを希望したい患者を透析歴別で見ると、1年未満が1番多く20.8%から26.9%へ増加、15年以上では希望する患者はいなかった。HHD指導に関わっているのは20.3%から48.1%へ増加、指導に関わりたくないは9.5%から0%へ減少。患者にHHDを勧めたいは32.4%から46.1%と増加、勧めたくないは2.7%から0%へ減少した。

### 【考察】

透析歴が短い患者程HHDに関心を示したことにより、保存期や転入患者・導入1年未満の患者に対して必ずHHDの情報提供を行うように努めたことも患者数増加の一因と考える。また、病院全体で取り組んだことで、スタッフにもHHDが魅力的な治療方法であるとの理解は深まりつつある。今後は、患者数増加に対する管理体制の構築が課題となる。